

日本公庫総研レポート「働く場としての中小企業の魅力」を発行
～ 中小企業就業者の特性を踏まえて採用難・就職難を乗り越える人材確保・育成策 ～

日本政策金融公庫 総合研究所では、今般、日本公庫総研レポート「働く場としての中小企業の魅力」を発行しました。

全従業者数に占める中小企業従業者の割合は、69.7%。それほど大きな存在であるにもかかわらず、中小企業は、景気回復局面で人材不足に陥る傾向が強い。その背景には、大企業に比べて中小企業に関する情報が明らかに不足しているため、求職者が躊躇するという事情があります。そもそも、働く場として中小企業の魅力とは何か？ 足元で中小企業の人材不足が深刻化するなか、ますますこれを解き明かす必要性が強まっています。

本件では、2つの大規模アンケート調査、働き手への直接的なインタビュー調査、地域の雇用を支える中小企業へのインタビュー調査を実施し、多様な角度から分析を図りました。

本レポートの概要は以下のとおりです。

本レポートの概要

1. 中小企業の働き手の特性と企業の対応

大企業と比較すると、働く場としての中小企業には、多くの特性がある。例えば、大企業では、「経営トップと話す機会はほぼない。」が全体の3/4を占めているのに対し、中小企業では、高い頻度で経営トップと接触する機会がある。こうした経営トップとのコミュニケーションが社員の意識に与える影響を探るため、“経営者と話す機会の多さ”と“仕事に対する好感度”とのクロス集計を行ったところ、経営者と話す頻度が高い企業ほど、働き手の仕事に対する好感度が高いという結果となった。風通しの良い社内の雰囲気は働き手のモチベーションに好影響を与えているのであり、この点は、中小企業の魅力の一つに挙げられる。

2. 働く場としての中小企業の特徴 ～ 5つの魅力と1つの課題

働く場としての中小企業の魅力を整理すると、5つの魅力と1つの課題に集約できる。

- ① 地元密着型の生活重視のライフスタイルを支える
- ② 小さい組織ゆえの昇進・昇格・枢要な地位獲得のチャンス
- ③ 働き手の目から見て感じられる身近な経営・経営との一体感
- ④ 社内における高い自由度と自己実現・多様なスキル獲得
- ⑤ 転職を前提とした生き方を支える受容体となる
- ⑥ 一方で、組織の未熟・未整備・規模の不利は現実的な課題

中小企業は、上述の各ポイントに応える体制の整備と“空気”の醸成が重要である。それを踏まえた上で、本件では、中小企業の特徴を活かした人材確保の4つの具体策を挙げた。

※本レポートの全文につきましては、[こちら](#)をご覧ください。